

心とからだの健康
2007年5月15日
健学社



環境対話キャンプ

2月16～18日 三村ふれあいの村

2006年6月15日には「学校教育法等の一部を改正する法律案」が可決・成立し、6月21日に公布されたことで、特別支援教育が本格的に実施されています。特別支援教育では、学校教育法で障害児の定義に含まれていなかったLD、ADHD、高機能自閉症などといった軽度発達障害が対象に含まれました。文部科学省は、LD、ADHDなどの子どもの通常学級

での存在が全児童生徒の約6%と指摘しています。

これらのことから、軽度発達障害の理解とその対応が求められることとなります。

去る平成19年2月16日(金)～2月18日(日)、神奈川県三浦市にある三浦ふれあいの村において環境対話キャンプが実施されました。このキャンプは倉敷市立短期大学教授の平山諭氏が主宰し、今回で24回目の開催となります。平山氏はADHDやアスペルガー症候群(AS)と診断された子どもや大人を対象に、脳科学を用いた脳改善アプローチを提唱しています。



平山諭氏



サイコモーターのときに歌う歌詞(オリジナル)



サイコモーターの様子(前で踊っているのは学生ボランティア)



心とからだの健康 2007年5月15日 健学社

その一環として、ADHD児やAS児といった軽度発達障害児の脳を活性化させることを目的とした教育的手法を広めるために「環境対話キャンプ」に取り組んでいます。環境対話法とは、子どもの脳を活性化する“かかわり”のスキルを知り、また子どもに与える“物（教材を含む）”に配慮したり使い方を工夫することにより、脳の神経伝達物質を調整し、その結果として、症状を改善する方法です。そして、その方法を実践する場が環境対話キャンプです。キャンプでは20～30組の家族を臨床トレーナーとよばれる学生ボランティアと、トレーナーをスーパーバイズするスーパーバイザーから構成されたチームが支援します。

環境対話キャンプに参加した親子は、この「環境対話法」を日常生活の中で実施することにより、症状の改善を促し、社会的適応を目指します。

また、特別支援教育コーディネーターを担当されている方などは研修生としてキャンプに参加できます。

キャンプは音楽にのってからだを動かしたり、歌ったりするサイコモーター、会話技術や感情表出技術を習得するための子ども会議などがあります。なお、このキャンプの評価方法は、キャンプ1日目と3日目に行われるGO/NOGO課題などの検査結果の比較で行われます。



自己紹介のやり方を子どもに指導する学生ボランティア



GO/NOGO課題の様子



集中力を高めるトレーニングをする様子



保護者に子育てスキルを指導する様子

今回は平成19年7月14日（土）～16日（月）、岡山県青少年教育センター^{岡山県}岡谷学校で実施されます。
なお、環境対話キャンプについては下記のホームページをご参照ください。
<http://www2.kct.ne.jp/~kei0987/camp/>